

Title	言語文化学 Vol.13 編集後記
Author(s)	春木, 仁孝
Citation	大阪大学言語文化学. 13 p.202-p.202
Issue Date	2004-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77941
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

『言語文化学』の第13号をお届けします。今回は最初に論文21編、研究ノート3編の応募がありました。査読の結果、論文10編、研究ノート2編が採用されました。論文の中には第1回目の査読の結果、不採用になったもの、修正・再査読が必要と判断されて応募を辞退してきたもの、再査読の結果、不採用になったものと経緯にはいろいろ有りますが、最終的には12/24ということで、採択率は50パーセントという結果でした。これを厳しいと見るか甘いと見るかはいろいろな意見があるでしょうが、少なくとも査読という制度はかなり良く機能していると思います。査読コメントは詳細にわたるものが多く、不採用になった場合も執筆者にとって非常に有益なものになっていると思われます。論文の中にはレジュームがネイティブチェックを受けていないものや、留学生の場合は本体の日本語を日本人によるチェックを受けずに応募してきているものがいくつか見られましたが、これらは最低限のルールを守っていないわけで、話になりません。内容がしっかりしている論文は、形式的なルールもきちんと守っているのが普通です。つまり、発表や応募論文には研究者の人間性も自ずと現れてしまうものです。今後も、ルールをきちんと守り、そして内容的にも優れた論文の応募がたくさんあることを願います。

2004年3月

大阪大学言語文化学会委員会（春木仁孝）